

| 教育目標 | | やさしく かしこく すこやかに——命を大切に・人を大切に・物を大切に—— | | | | | | |
|------------|----------------|--|---|--|---|--|--|---|
| 重点目標 | | (1) 基本的な人権が尊重される教育の推進 (2) 一人ひとりのニーズを把握し、適切な教育支援を行う「特別支援教育」の推進 (3) わかる授業の創造による、生きてはたらく学力の育成 (4) 心ふれあう仲間づくり (5) 基本的な生活習慣を身につけさせる (6) 心を育てる美しい環境づくり (7) 命を守る安全教育の推進 (8) 健やかな体づくり | | | | | | |
| 項目 | 重点項目 | 具体的施策 | 達成目標 | 自己評価 | 成果と課題 | 改善策 | 学校関係者評価 | |
| 学力の向上 | 基礎・基本の徹底と、授業改善 | <ul style="list-style-type: none"> 基礎的、基本的な知識・技能を習得する。 授業力の向上と授業改善をめざして、職員研修を定期的に行う。 | <ul style="list-style-type: none"> 週5回、10～15分間の朝学習を活用し、漢字と計算練習を行う。 漢字の10問テストを週に1回実施、その後まとめテストを行う。 計算ドリルの反復練習を定着させ、単元テストを実施する。 兵庫型教科担任制やチームティーチングできめ細やかな個別に応じた指導で学力向上を図る。 授業を行う全ての教員が2学期までに年1回以上の公開授業を行う。 | <ul style="list-style-type: none"> 朝学習を児童に定着させる。 漢字10問テストでは正答率が90%以上になる。 まとめテストの正答率が80%以上になる。 算数単元テストでは正答率が80%以上になる。 めあてに対し、児童が振り返りをする。 授業を行うすべての教員が年1回以上の公開授業を行い、改善点を話し合う事後研と成果と課題をまとめる。 児童アンケートにおいて「授業はわかりやすく教えてくれる」の肯定的回答率が90%以上になる。 | B | <ul style="list-style-type: none"> 全学年が毎日、各クラスに合わせた朝学習を実施することができた。学習内容は漢字や計算と基礎学力につながることを行った。 単元テストに関し、個々の差は見られる。その中でも、それぞれに伸びが見られた。 めあてを授業の初めに確認することをおおむね各クラス統一できている。 すべての教員が公開授業を行い、事後研で成果と課題をまとめることができた。 児童アンケートの肯定的な意見は87%であった。 | <ul style="list-style-type: none"> 今後も、2年生の児童に九九を100%定着させることと、3年生以上の十分でない児童への取り組みが必要。 来年度より、児童の実態をつかむための問題を活用し、苦手の克服に努める。 児童が達成感を味わえる授業改善を全職員で取り組む。さらに児童の実態にあった授業内容・方法の検討を行う。 学力向上に向けて、研究推進委員会、学力向上委員会で今後も話し合い、全職員で取り組む。 | |
| | 思考力・判断力・表現力の育成 | <ul style="list-style-type: none"> 思考力・判断力・表現力を育てる授業を展開する。 作文活動を充実させ表現力の育成を図る。 読書活動を充実させ語彙力の習得を図る。 | <ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを、自身の言葉で伝えたり、友だちの考えを聞いて考えをまとめたりする活動を、授業に取り入れる。 話し合い活動やペア学習などの児童同士の関わりを活用して、コミュニケーション力の向上を図る。 国語科においてまとめの感想文を書く活動を行う。 行事や社会見学のもとに新聞を書かせ、丁寧に指導する。 週1回の図書の日、業間での本の貸し出しや、児童や教師の読み聞かせを行い読書意欲の向上を図る。 | <ul style="list-style-type: none"> 話し合い活動、ペア学習をする中で、児童同士が児童同士の関わりの中で、コミュニケーションをとり、考えを深めることができる。 まとめの感想文の中に、授業者がつかませたい内容を書ける児童が80%以上いる。 単元テストの記述問題で自分の考えを書いている児童が80%以上いる。 1ヶ月の読書目標8冊を達成する。 | B | <ul style="list-style-type: none"> 児童の思考の深まりを進めるため、ペア学習を取り入れることができた。 まとめの感想文に取り組み、学びを定着させることができた。それが次の意欲につながった。 読書量は5月～12月の月平均は8.7冊だった。 | <ul style="list-style-type: none"> 児童個人の学習を保証した上で、ペア学習を取り入れるを今後も取り入れる。 学びを蓄積できるよう系統的に指導していく。 一層の読書の啓発活動を工夫し行う。 | |
| 学力の向上 | 学習意欲の向上 | <ul style="list-style-type: none"> 授業の展開を工夫し、学習意欲を向上させる。 学習習慣の定着を図る。 | <ul style="list-style-type: none"> 各教科の単元指導の中で、電子黒板、実物投影機等のICT機器を効果的に活用し、学習意欲の向上を図る。 学習の中でペアやグループ学習を活用して学習する。 国語科において、出会いの感想文から児童の実態をつかみ、児童の意見を活かした授業展開を行う。 家庭で60分程度でできる宿題を出す。 | <ul style="list-style-type: none"> ICT機器を活用し、児童が課題を想像しやすくする。 話し合い活動を通し、考えを伝える側は、学びが深まり、伝えられる側は自分の考えに自信を持つ。 指導内容を明確にした授業を展開する。 児童アンケートの「先生は教え方にいろいろ工夫している」で肯定的評価が85%以上になる。 児童アンケートの「家庭学習(宿題を含めて)を60分以上している」の肯定的評価が80%以上になる。 児童アンケートの「宿題を提出している」の肯定的評価が90%以上になる。 | A | <ul style="list-style-type: none"> 教職員アンケートは肯定評価が91%であった。 伝えたことで自信をもつ児童、友だちの意見を聞いて、考えが深まった児童がいた。 授業の初めにめあてを持ち授業の流れを示す。 児童アンケートの肯定的な評価は96%であった。 出会いの感想文を書くことで、子どもが当事者意識を持って授業に参加していた。 「家庭学習を60分以上している」は79%であったが、「宿題を提出している」の肯定評価は93%であった。 | <ul style="list-style-type: none"> 学団の打ち合わせ等で、どのように活用しているかを共有する。 児童同士の関わり合いを今後も取り入れる。 見通しを持たせることが有効であるので、今後も継続していく。 児童の意見を基に授業が作られていることが児童にも伝わっていると考える。 特に低学年で60分間の時間は困難と考える。そこで、低学年のから家庭学習の習慣をつけるための「時間」と「内容」を全校で共通理解して取り組む。 | |
| | 豊かな心・健やかな体 | 不登校児童への対応 | <ul style="list-style-type: none"> 不登校の未然防止を図る。 | <ul style="list-style-type: none"> 連絡のない欠席児童については、始業前後に家庭に連絡を取り、連絡のつかない場合は児童支援教員を中心に家庭訪問を行う。 ケース会議を開き、個に応じた対策を検討する。(別室登校、担任が登校前に家庭訪問する等) いじめアンケートをとり、いじめが原因の不登校を未然防止、早期発見する。 | <ul style="list-style-type: none"> 病欠者を除き、欠席数が30日以上の児童を1パーセント以下にする。 保護者アンケートの「子どもは楽しく学校に通っている」、児童アンケートの「学校は楽しい」の肯定的回答が90%以上になる。 | A | <ul style="list-style-type: none"> 該当児童は1パーセント未満であった。 肯定的な評価は98%だった。今後も今年度の活動を継続する。 | <ul style="list-style-type: none"> 学級担任と児童支援教員、管理職とが綿密な連携をとり、家庭とのつながりを、継続的に密にする。 今後も、いじめアンケートから、早期発見、早期対応を心がける。 |
| 豊かな心・健やかな体 | 体力の向上 | <ul style="list-style-type: none"> 自ら進んで体力を向上させようとする児童を育てる。 | <ul style="list-style-type: none"> 体育委員会児童主催の外遊びと啓発運動を行う。 体育委員会児童主催の運動大会を行う。(長縄大会、ドッジボール大会、体力向上秘密特訓週間) 教員対象の体育実技指導を行う。 | <ul style="list-style-type: none"> 各学年の達成目標を80%以上の児童が上回る。 | B | <ul style="list-style-type: none"> ドッジボール大会、長縄大会にむけてクラスをあげて、業間休みや終わりの会の後に練習する等、日常的に運動をする経験を続けることができた。 | <ul style="list-style-type: none"> 年間を通した体育的行事を計画することで、継続した運動をする機会を設定する。 | |

| | | | | | | | | |
|-------------|-------------|---|--|--|---|--|--|--|
| 開かれ信頼される学校園 | 学校情報の積極的な発信 | <ul style="list-style-type: none"> 積極的に学校情報を発信する。 授業参観やオープンスクール、学習室参観週間を実施し、保護者や地域の方に普段の授業の様子を公開する。 学校評議員会や学校関係者評価委員会開催時には授業参観を行う。 | <ul style="list-style-type: none"> 学校だよりを月4回程度を目標に発信する。 学校ホームページを週1回更新し、学校情報を積極的に発信する。 | <ul style="list-style-type: none"> 学校ホームページを週1回以上更新する。 保護者アンケートの「学校は教育方針や行事、活動などの様子を学校通信やホームページ等を通じて保護者に伝えている」の肯定的回答が90%以上になる。 | A | <ul style="list-style-type: none"> 年平均、週に3回ペースで更新している。 保護者アンケートの肯定的な意見は97%であった。また、保護者アンケートの自由記述でも、肯定的な意見があったので、情報公開の目的は果たせている。 | <ul style="list-style-type: none"> 更新が主に管理職になってしまった。各学年が毎月更新できるように、更新日を決めてバランスよく発信していく。 | |
|-------------|-------------|---|--|--|---|--|--|--|

学校関係者評価総括

次年度に向けた重点的な改善点

自己評価の基準 A：目標を上回った B：目標どおりに達成できた C：目標をやや下回った D：目標を大きく下回った